

野菜



露地スナップ栽培



野菜

山下 伸一
下島宮農指導センター
080-1729-1630

1、作型

月	7	8	9	10	11	12
露地		〇〇	—————	〇〇〇〇〇〇〇〇		
		播種		収穫		

2、圃場準備 (kg/10a 当たり)

	N	P	K
基肥	20~25	30~35	20~25
追肥	3	3	3
合計	15	20	15

3、播種

播種例

畝幅 120~135 cm

株間 10 cm の 1 粒、2 粒交互に播種し、MKK 等で覆土をします。

※降雨直前や、直後には播種は避けます。地温が高すぎると立枯れを起こすため注意しましょう。

地温を下げるマルチ資材 ミラーマルチ、白黒マルチ、敷き藁など。

4、灌水

生育初期は灌水を控え、強い根張りを促します。灌水チューブを使用する場合は株元を乾燥させるため、生育するにつれ株元から徐々に離していきます。収穫が始まると灌水量を増やしていきます。

5、整枝・摘花

採光、病害虫防除、樹作りの為 10 節ぐらいまでの側枝、花を摘み取ります。主枝 1 本仕立が基本となります。倒伏防止、品質・収量アップの為に必ずネットを張って誘引します。

6、収穫

莢の膨らみ 7 分が適期となります。収穫が遅れないようにしましょう。

7、その他

- ・樹、莢が凍るため霜には注意してください。
- ・病害虫はうどんこ病、灰色カビ病、ヨトウムシ、タバコガ、ハモグリバエに注意しましょう。
- ・目標草勢 花はダブルで大きいもの。莖は鉛筆より太く、葉は肉厚、丸葉で 3 対葉。芯は大きく横向きのもの。

果樹



8月の柑橘園管理



果樹

後藤 昇
下島宮農指導センター
080-1729-1631

梅雨明け後はあまり雨も降らず高温乾燥状態が続きます。中晩柑類においては今後も肥大と減酸を促進するため定期的なかん水を行い、品質の良いみかんを作しましょう。

1. 土壌水分管理

○温州みかん・・・温州では内容充実の為、乾燥ストレスをかけます。今後は無駄な水を入れない為、マルチをされていない園では、早急に被覆を行いましょう。また、果実分析の内容を確認し、下の表を参考に水分管理を行って下さい。

8月1日時点果実内容目標

品 種	糖 度	生産対応
極 早 生	8.5~8.9度	少量かん水3t以上/10a 5日間隔
	8.0~8.4度	現状維持
	8.0度未満	乾燥ストレス促進
早 生	8.5~9.4度	少量かん水3t以上/10a 5日間隔
	7.5~8.4度	現状維持
	7.5度未満	乾燥ストレス促進

○中晩柑・・・中晩柑では今後も肥大を促進させる為、雨が少ない場合は定期的なかん水を行います。一昨年露地デコボンで多かったヤケ果については、8~9月の水分不足が一つの要因となっています。特に乾燥しやすい園地では注意をし、雨が少ない場合は3~5日おきに10t/10a程度のかん水を行って下さい。

2. 仕上げ摘果の実施

全品種8月上旬をメドに仕上げ摘果を行って下さい。

○8月1日時点の肥大目安

品種名	目標階級	肥大目安	品種名	目標階級	肥大目安
極早生	M	46 ^ミ	デコボン	2L	50 ^ミ
早生	M	39 ^ミ	河内晩柑	L	63 ^ミ
普通	M	32 ^ミ	パール柑	2L	75 ^ミ
甘夏	2L	57 ^ミ	清見	2L	49 ^ミ

3. 病害虫防除

日焼け防止の為サンテ等をされる場合は、事前にスタークル顆粒水溶剤を散布しアザミウマの防除を行って下さい。また、稲刈り後はカメムシがみかん園に飛んで来やすいでするので、発生初期の防除を徹底しましょう。

河内晩柑やパール柑では樹が老木化しており、非常にさび果が発生しやすい状況ですので盆明け以降にオキシンドー水和剤80を散布して下さい。

対象品種	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	収穫前日数	備考
温州中晩柑	黒点病	ジマンダイゼン水和剤	600倍	温州 30日前 中晩柑 90日前	混用散布
	ミカンサビダニ チャ/キロアザミウマ	コテツフロアブル	4,000倍	前日まで	
	カメムシ・アザミウマ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	上旬散布
	カメムシ	Mr. ジョーカー水和剤	2,000倍	14日前まで	※多発時散布
河内晩柑 パール柑	黒点病 炭疽病(さび果)	オキシンドー水和剤80	800倍	30日前	盆明け以降散布

○ハダニ防除

農薬名	希釈倍数	ハダニ	サビダニ	ホコリダニ	収穫前日数	備考
ハロツク	2,000倍	○	○		14日前	成虫に効果なし
フロアブル						
ダニエモン	4,000倍	○	○	○	7日前	
フロアブル						
ダニゲッター	2,000倍	○	○	○	前日	
フロアブル						

4. 果皮強化対策

デコボンや清見については、果皮強化対策としてカルシウム剤の定期的な散布を行いましょう。また、日焼け果が多発する園や極早生等ではバイカルティの散布をおすすめします。

○ジュシーカル 1,000倍 又は バイカルティ 1,000倍 (20日おきに3回程度)

宮情



お米の歴史学

沖縄の米

国士舘大学21世紀アジア学部教授

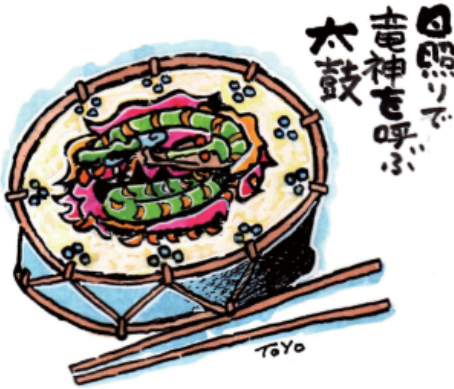
● 原田信男

かつて民俗学者の柳田国男は、海上の道説を唱えて、沖縄から稲作が日本に北上してきたと説明しました。ところが考古学の発掘成果からは、沖縄の稲作の方が新しいという結論が導き出されています。北海道の対極に位置する沖縄は、米の栽培に適した亜熱帯気候にありながら、稲作はあまり盛んではなく、道県別総面積比で見ると、北海道は沖縄の36倍ほどですが、米の生産量では256倍と大きく異なり、10a当たりの収量となると、沖縄は2分の1程度にとどまります。

沖縄に水田が少ないことの背景には、敗戦後から本土復帰まで、安い外国米が自由に輸入できたことに加え、サトウキビの値段が上がったため、多くの田んぼがサトウキビ畑に転換されたという事情もあります。しかし、これでは10a当たりの収量が少ないことは説明できません。

基本的に沖縄は、亜熱帯であるにも

かわらず、地形が水田に適していないのです。沖縄の島々は、隆起サンゴ礁から成る低島と、日本列島の延長線上にある山々を抱えた高島から成っています。このうち低島では、雨水が通過して地下水となつて川が非常に少なく、高島といつても高い山でも400mクラスで、長い河川が発達していませんし、干ばつが多いので稲作に必要な水の確保が難しいのです。また水田に適した扇状地には、塩水が入り込んだりするなど、稲作に不利な条件が重なります。もちろん琉球王朝が成立する以前から、米作りは行われており、受水（うきんじゅ）・走水（はいんじゅ）という稲作の聖地もあります。また再生作という一種の二期作も行われていましたが、生産量には限界がありました。このため王族や士族は米を食べていましたが、庶民はタロイモやサツマイモが主食だったとされています。



ミツバチに対する農薬危害防止について

ミツバチは、採蜜はもとより果樹類やいちご、メロン、すいか等の園芸作物の花粉交配には不可欠で、農業生産において重要な役割を担っています。これから普通期水稻は出穂・開花期を迎えます。この時期の農薬散布にあたっては、次の3点に留意し、ミツバチに被害が生じないように十分注意しましょう。

- ①薬ラベルの使用上の注意事項をよく確認し、ミツバチに影響のある薬剤を使用する場合は特に注意する。
- ②近くの養蜂家と巣箱の位置や防除計画など事前に情報交換する。
- ③防除時は、水田の周辺を十分確認し、ミツバチや巣箱に農薬がかからないよう注意する。

(問い合わせ先)

熊本県農業技術課 (096-333-2381)、畜産課 (096-333-2401) 又は最寄りの各広域本部 (地域振興局) 農業普及・振興課までおたずねください。

